

はじめに

当国は中南米の中では政治的にも安定し、比較的治安の良い国とされていますが、日本に比べメキシコ市の治安状態は必ずしも良好とは言えず、邦人の盗難等の被害もかなりの数に上っています。

この小冊子は、メキシコ特にメキシコ市で生活される日本人の方に対して、海外生活を安全に過ごすために作成したものです。安全な生活のための対策あるいは注意事項は、数え上げだすと際限のないもので、ここで十分に網羅できなかったものも数多くあります。また、状況の捉え方、対策の立て方などは各人によって、かなりの差異があると思います。最終的に海外生活の安全確保は、皆様方各人の見識に委ねられているとあってよいでしょう。本小冊子が一助となれば幸いです。

生活環境は刻々と変化し、生活の安全対策も当然変化して行きます。1988年には、まことに残念ながら日系人の誘拐事件が発生し、83日間の長きにわたり、犯人にその身柄を拘束されました。また、本年3月には、女子大生がバス旅行中に殺害されるという不幸な事件が発生しました。そのほかにも在留邦人に対する誘拐未遂と思われる事件が発生しています。他方、中南米地域において、1991年から1992年にかけて邦人を標的とした誘拐、殺人という重大事件が頻発しました。この背景には「金もち日本人」というイメージが定着したこともあるかと思われます。

このような背景から、1992年5月在留邦人社会を代表する商工会議所を中心に大使館との安全対策連絡協議会を設置し、当国での生活をより安全で快適に過ごせるため、意見を交換しつつ、施策を講じて行くことになりました。同協議会の最初の仕事として、安全対策アンケート調査を実施し、当国在留邦人の犯罪被害・安全対策について、かなり正確に現状を把握することができました。

そこで、この調査結果を反映し、本小冊子を改訂しましたので、折に触れ御利用頂き、今後とも尚一層安全対策の点検・強化に御留意され、各種事件の発生を未然に防止して、皆様のメキシコ生活が安全で快適なものとなることを希望致します。

1993年7月

1 当国の治安状況

(1) 政治的犯罪

当国においては1968年のトラテロルコ事件以来、政治的非法組織は政府の手によって一掃され、現在、非法組織による邦人を対象としたテロ、誘拐等の事件は発生していません。

しかし、これらの犯罪は何時おきるか予期できないものです。日頃から当国の政治情勢に関心を持ち、注意を怠らないようにしましょう。

(2) 組織暴力

当国においては、わが国のような組織暴力団の存在は現在まで把握されていません。

しかし、麻薬マフィアの集団グループは存在しており、同グループは当国を地盤に国内及び他国への売買を主たる目的として地下潜行での組織活動をしているところから、日常の私達の生活には直接かかわりあいは薄いといえますが、これらグループの運び屋的対象

にならないように注意することが必要です。

空港における通関の前に、知らない間に麻薬を所持品の中に入れられることがあります。通関の際発見されると麻薬所持の現行犯で逮捕され、無実の証明が困難になります。不可抗力のようですが、口の開いた紙袋は持たない、不審な人の接近に注意を払うことである程度防げます。

(3) 一般犯罪

過去10年間の連邦区における犯罪件数の推移は表1の通りです。政権交代により犯罪統計の方法が変更され、犯罪の経年変化を正確に現しているとは言えませんが一般に当国の犯罪は経済状態に関連しており、経済状態の変化は敏感に犯罪の増加となって現れると言われています。

その犯罪の内容は表2の通りで、窃盗罪が圧倒的な比率を占めています。傷害罪の一部は窃盗に起因するものであることを考え合わせれば、犯罪における窃盗の占める割合はさらに高くなります。これは、明らかに貧困による犯罪といえるでしょう。

また、表3は連邦区における犯罪発生区域を示していますが、邦人企業の多くが事務所をおいているクアウテモックが第1位となっています。もちろん、同区はソカロ等旧市街のほとんどを包含しているので事務所付近が危険だということに直接結び付きませんが、危険区域に隣接しているということはいえるでしょう。

邦人の住居の多いベニート・フアレス（デル・バジェ地域を含む）、ミゲル・イダルゴ区（ポランコ地区を含む）も犯罪発生件数が多いことに注意してください。皆さんの事務所、住居のある区域は決して安全な区域とは云えないのです。

(4) 邦人の巻き込まれ易い犯罪

大使館に被害届が出される件数は毎年約60～70件ですが、100%が強盗、傷害を含む盗難事件です。また90年6月に実施したアンケート調査によっても邦人が巻き込まれた犯罪の大半は強盗事件となっています。

日本人はこの国においては上流階級と同等の生活をしていると見られていること、現金をもち歩くと見られていること、安全に対する気配りが足りないこと等、日本人は強盗事件の格好の対象となりがちです。

(5) 犯罪検挙率

当国の犯罪検挙率は10%にも満たない検挙率です。日本の犯罪検挙率は凶悪犯（殺人、強盗、強姦、放火等）の場合約90%、窃盗等軽犯罪の場合約50%ですので、これに比べるときわめて低いことがわかります。

また、犯罪発生後の事後補償はほとんど期待できないと考えたほうがよいでしょう。ですから、犯罪に遭遇しないよう自分自身で充分注意して生活する必要があるわけです。

表1 過去10年間の犯罪件数（メキシコ市）

西暦	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992
	152430	150657	149920	165295	174075	178495	155241	133352	136927	140960

(1993年 連邦検察庁統計より)

表2 犯罪区分（メキシコ市—1992年中）

(注) 各犯罪とも過失を除く

年/項目	窃盗	強盗	傷害	殺人	性犯罪	総件数
1991年	33,631	24,782	11,997	808	3,184	136,927
1992年	35,813	30,356	11,892	948	2,753	140,960
増減(件)	2,182	5,517	-105	140	-431	4,033
	(6.5%)	(22.3%)	(-0.9%)	(17.3%)	(13.5%)	(2.9%)

主要犯罪の実行手段等 (メキシコ市-1992年中)

[強盗被害状態別]

運転・配達人	店舗等	自転車	民家等	通行人	合計
6,518	4,348	6,329	662	12,499	30,565
21.3	14.2	20.7	2.2	40.9	100%

[殺人手段] (過失を除く)

[傷害手段] (過失を除く)

銃器類	刃物類	暴行	合計	銃器類	刃物類	暴行	合計
544	179	225	948件	1,356	886	9,650	11,892
56.3	18.9	23.7	100%	11.4	7.5	81.1	100%

(1993年 連邦検察庁統計より)

表3 犯罪発生区 (メキシコ市-1992年)

1. アルバロ・オブレオン (含、マダモ・コントラス)	7456
2. アスカポトサルコ	6034
3. ベニト・ファレス	12620
4. コヨアカン	12303
5. クアウテモック	22148
6. グスタボ・A・マデロ	16777
7. イスタカルコ	6047
8. イスタパラパ (含、トラファック)	14101
9. ミゲル・イダルゴ (含、クアヒマルパ)	12156
10. トラルパン (含、ミハ・アルタ、サミロ)	6861
11. ベヌステイアノ・カランサ	12825
12. その他 (本部への被害届等)	11569

連邦区内犯罪認知情報 (1992年中)

地域名 AZCAPOTZALCO		地域名 BENIT JUARES		地域名 MIGUEL HIDALGO	
人口	474,905	人口	407,731	人口	406,693
年	1991 1992	年	1991 1992	年	1991 1992
強窃盗	2,915 3,545	強窃盗	6,545 7,658	強窃盗	5,184 5,283
傷害	518 410	傷害	543 711	傷害	1,017 1,020
殺人	16 32	殺人	31 44	殺人	76 93
強姦等	6 2	強姦等	15 9	強姦等	616 540
地域名 GUSTAVO A. MADERO		地域名 CUAUHEMOC		地域名 VENUSTIANO CARRANZA	

人口 1,268,123
 年 1991 1992
 強窃盗 6,870 8,057
 傷害 1,985 2,012
 殺人 143 153
 強姦等 536 586

人口 595,972
 年 1991 1992
 強窃盗 11,280 11,586
 傷害 1,395 1,540
 殺人 68 101
 強姦等 8 2

人口 519,606
 年 1991 1992
 強窃盗 4,379 5,524
 傷害 1,386 1,560
 殺人 52 74
 強姦等 1,071 949

地域名 CUAJIMALPA DE MORELOS

人口 119,720
 年 1991 1992
 強窃盗 317 282
 傷害 102 66
 殺人 5 14
 強姦等 1 0

地域名 ALVARO OBREGON

人口 643,542
 年 1991 1992
 強窃盗 2,494 2,945
 傷害 603 637
 殺人 45 45
 強姦等 10 3

地域名 MAGDALENA CONTRERAS, LA

人口 195,000
 年 1991 1992
 強窃盗 653 526
 傷害 153 125
 殺人 19 11
 強姦等 6 1

地域名 IZTACALCO

人口 448,357
 年 1991 1992
 強窃盗 2,306 3,059
 傷害 436 470
 殺人 23 28
 強姦等 9 5

地域名 AZTAPALAPA

人口 1,490,981
 年 1991 1992
 強窃盗 5,972 6,436
 傷害 1,257 1,025
 殺人 165 182
 強姦等 7 1

地域名 COYOACAN

人口 640,006
 年 1991 1992
 強窃盗 4,517 5,848
 傷害 1,222 1,100
 殺人 74 67
 強姦等 800 626

地域名 TLALPAN

人口 485,043
 年 1991 1992
 強窃盗 1,910 2,132
 傷害 439 391
 殺人 44 43
 強姦等 6 6

地域名 MILPA ALTA

人口 人口
 年 1991 1992
 強窃盗 123 113
 傷害 41 28
 殺人 1 7
 強姦等 2 0

地域名 XOCHIMILCO

年 1991 1992
 強窃盗 711 627
 傷害 233 181
 殺人 22 24
 強姦等 3 0

地域名 TLAHUCO

人口 206,688
 年 1991 1992
 強窃盗 380 491
 傷害 102 87
 殺人 17 28
 強姦等 0 1

地域名 その他

(連邦区検察庁への直接申告)
 人口 ---
 年 1991 1992
 強窃盗 2,237 2,057
 傷害 565 469
 殺人 7 2
 強姦等 88 22

地域名 DISTRITO FEDERAL

人口 8,236,960
 年 1991 1992
 強窃盗 58,431 66,169
 傷害 11,997 11,892
 殺人 808 948
 強姦等 3,184 2,753

◎犯罪統計は、「PROCURADURIA GENERAL JUSTICIA DEL DISTRITO FEDERAL」による。

◎人口統計は、「INSTITUTO NACIONAL DE ESTADISTICA GEOGRAFIA E INFORMATICA」による。

2 海外生活を安全に過ごすための注意事項

(1) 一般的注意事項

(イ) 当国事情の理解

海外生活の安全のためには、まず、その国の理解から始める必要があります。政治的安定度、経済状態、雇用状況、物価、対日感情、当国人氣質、文化程度等々です。しかし、

一国を理解するという事は一朝一夕にできることではありません。永い期間当地に在留している先輩諸氏や日系人の方々等の意見に耳を傾け、できるだけ早く当国事情を理解し、当国での生活に慣れるよう心がけて下さい。

(ロ) 信頼関係の醸成

どんなに近代的設備をもってしても、犯罪から完全に身を守ることはできません。最終的には人間同志の信頼関係が身を守ってくれます。

昔、当国への移住者の草分けである松田英二氏（後、UNAM植物学博士）は、自分の経営する農場がしばしば略奪にあうので、その対策として青少年のための学校を創り、文盲退治と道徳教育を行いました。当初は子供を学校へやると収入源が減ることから、どの家族も子供を学校へ通わせようとはしませんでした。そこで、学校にくる子供にはお金を払い教育事業を続けた結果、次第に多くの児童が学校に通い始め、略奪や泥棒に組していた子供や大人まで悪事から遠ざかって行ったそうです（井沢実著「ラテン・アメリカの日本人」より）

時代の違い、都市と農村との違いなどがあり、現代のメキシコ市の状況にそのまま適用できるとは思いませんが、常に基本的な努力目標の一つとして、当国人との融和、信頼関係を築いていくという姿勢を仕事あるいは個人生活のあらゆる部分において忘れないようにする必要があります。

当国の対日感情はおおむね良好な状態にあるといつてよいでしょう。しかし、一人の不用意な行動が日本人全体の評判を落とし、日本人への犯罪の可能性を高めてしまうこともあります。使用人の不手際や悪事を叱るときは、相手の恨みを買わないよう上手に叱ること、そうさせた自分の非もあることを認め、諦めも肝心です。ただし、二度と同じことを起こさないよう注意しましょう。また、当国人との通常の付き合いの中で、相手の親切や依頼を断らなければならないときは、自分の意思として断る印象を相手に与えないようにし、どうしても断らざるをえない適当な理由を付けて断るようにしましょう。

個人的に恨みを買った場合の犯罪は計画的かつ残忍になる傾向があることを心に止めておきましょう。

(ハ) 犯罪者を自ら作らない

当国においても、泥棒を生業としている人間は多数いると思われませんが、貧困が蔓延し、階級格差の激しい国では、多くの善良な人々も貧困なるが故に常に犯罪者に変わり得る要素を有しています。ぜいたく品を誇示したり、夜遅く暗い場所を歩く等犯罪を誘発するような行動を避けて下さい。これは、善良な人を犯罪者にしないためにも、泥棒を生業としている人から身を守るためにも非常に重要なことです。

(ニ) 自分の安全は自分で守る習慣をつける

日本人は自分の安全を自分で守るということには概して不得手です。この後に安全な海外生活のための注意事項を揚げますが、果たして何人がこれを守れるか疑問な面があります。多くの人は

○容易に習慣は変えられない。

○自分には関係がない。

○どんなに注意しても巻き込まれるときは同じ。

というような言い訳を用意して、つつい日常生活における安全対策を怠りがちになります。これは、日本人が自分の安全は自分で守るということに不慣れなため、個人生活において細かい安全上の注意事項を守ることの緊張感に耐えられなくなってしまうからです。しかし、これはあくまで慣れの問題です。注意事項の中から自分の身の丈に合う安全対策を整理し、三カ月続けて実施してみてください。その後は緊張感を伴わないで実施できるようになります。

(ホ) 防犯設備は厳重に

安全対策に王道はありませんが、防犯設備は厳重にすればするほど犯罪被害は減少します。鍵であれば1つより2つ、警備員は1人より2人という具合です。そして、厳重にしていることが外部からわかるようにすることが肝要です。これは、犯人も犯罪を犯す際の

危険度を最少にしようとしているからです。

(へ) 親切にも警戒心を

当国人は根は親切で陽気なところがあり、その親切を無条件に受け入れたいところですが、親切を装って物を盗ったり、詐欺にかけたりするケースが増えています。見知らぬ人からの親切に対しては、一呼吸おいて、不必要な場合は適当な理由をつけて断るようにしましょう。身なりの良い人や、英語で話しかけてくる人でも警戒を怠ってはなりません。

(ト) 犯罪者との対応

不幸にして事件に遭遇した場合は、まず冷静になることを心がけ、不用意な抵抗は絶対にしないで下さい。単なる盗難事件が傷害事件になったり殺人事件になったりします。抵抗の意思はなくても、相手に抵抗と思われる素振りも禁物です。犯罪者も非常に興奮しています。

背広の内ポケット及び所持しているバッグ等の中に手を入れるような素振りは、最も危険です(犯人は、常に拳銃を持っていると思って下さい)。

(2) 経験的注意事項

当国には当国特有の犯罪傾向があります。当国に長く滞在した人の当国の犯罪傾向に対する経験的知識には傾聴に値するものがあります。主なものを列記しますので心に留めておいて下さい。

(イ) 給料日(1日、15日に近い労働日)は泥棒も機会を狙っている。

(ロ) セマナ・サンタ、クリスマスが近づくとも犯罪が急増する。

(ハ) 労働者、特に警官が大量解雇されたときは要注意

(ニ) 高級住宅街に隣接する人通りの少ない道路は危険

(ホ) 襲われたときのために、命金は必ず持っていること

(へ) 使用人を替えたら必ず鍵を変え、変えたことをポルテロに分かるようにする。

(使用人とポルテロは大抵仲が良い)

(ト) 夜は出歩くな

(チ) 銀行や現金引出し機で大金を引き出した者を見張り役が襲撃グループに連絡している。

(リ) 外部から内の様子が分かり、表通りに面していないレストランは狙われやすい。

(ヌ) 長距離バスは、停車個所の多いものを避け、昼間の直行便を利用する(夜行バスは利用しない)。

(ル) 通行量の少ない道路でのマイカー運転に注意。

(3) 具体的注意事項

(イ) 住居の選択

○一戸建てより警備の完備したアパートにする。

○アパートは24時間警備のあるところにする。

○貧民街に隣接していないこと。

○孤立していないこと

○住居前の道路が暗くないこと。

○一戸建ての場合、塀、門が頑丈なこと。

○不審な状況が生じたとき直ぐ判るよう、住居の周囲の状態を日頃から把握しておく。

(ロ) 住居の設備

○入り口の鍵は複数にする。

○鍵はコピーの作りにくいものにする

○鍵は充分管理する。

○鍵は時々付け替える。

○入り口の扉には必ず鍵がかかるようにする。

○主寝室には必ず鍵がかかるようにする。

○侵入の可能性がある窓には鉄格子をつける。

- 外灯はできるだけ明るくし、家の中から制御できるようにする。
- 一戸建ての場合、犬を飼う。
- 信頼できる警備会社と契約し、緊急通報装置をつける。
- (ハ) 外出
 - たとえ短時間の外出でも必ず施錠する。
 - 外出は誰かと一緒にするよう心がける。
 - 短時間の外出の際は家に人がいるように装う。
 - 鍵を扉のマットの下、植木鉢等に隠して外出しない。
 - 信頼できる人に外出、行き先、帰宅時間を知らせておく。
 - 友人宅から帰宅したときは、無事帰宅した旨知らせる習慣をつける。
 - 長期の外出は必要な人以外教えない。
 - 長期の外出の際は信頼できる知人に定期的に家の点検を依頼する。新聞等がたまると狙われ易い。
 - 定期的な外出の場合は時間、通路を変える。
 - 不必要な貴重品、重要書類はもち歩かない（特に、バス、地下鉄は要注意）○夕方以降のバス、地下鉄は努めて避ける。
- (ニ) 路上
 - ぜいたく品をみせびらかすようにもち歩き人目をひかない。
 - 奥まった道路で物売っている人には近づかない。
 - 暗い場所、人気のないところは歩かない。
 - ハンドバッグは肌身離さずもち歩く。
 - 「何時ですか」など、意味のない呼びかけは無視する。
 - 事故等騒ぎの起きている場所には近づかない。
 - 見知らぬ人につけられている気配がしたら、方向を変えたり道路を横切る。
 - 車の中から道を聞かれても車には近づかない。
- (ホ) 車の設備
 - 保険には必ず加入する。
 - 警報装置、ハンドル固定装置をつける。
 - 車の状態は常に良好にしておく。
- (ヘ) 車の駐車
 - 暗い場所、孤立した場所には駐車しない。
 - できる限り管理のしっかりした駐車場に入れる。
 - ドアロックは常に忘れずに。
 - 車の中に荷物を放置しない（トランクの中でも安全ではない）。
- (ト) 車の運転
 - 通勤、買物等定期的に運転する際は経路、時間をしばしば変える。
 - ドアロックをし、できたら窓を締めて走る。
 - 車間距離を適当にとり、不意のでき事に対応できるようにしておく。
 - 知らない人は絶対に乗せない。
 - 乗る前に後部座席等車内を確かめる。
 - ガソリンは常に余裕をもって入れておく。
 - 故障した車があっても単独で助けようとせず、応援を求めるに留める。
 - 自分の車が故障した場合も、車をロックし、信頼できる人の応援を求める。
 - 帰宅して車庫に入れる前に周囲に怪しい人間がいないか確かめる。
 - 自分が利用するルートの中で警察または人の集まる場所を知っておく。
 - 出発に際し自分の後ろでエンジンをかける音がしたら、同じ道を一周するなど安全を確認する。
 - 夜は良く知った道でかつ交通量の多い道を選ぶ。
 - 一時停車する場合はすぐに発進できるようにしておく（特に夜間、交通量の少ない道路では、他の車に挟まれるような状態で一時停止をしない）。

- 家の鍵と車の鍵は一緒にしない。
- 後をつけられている気配がしたら、できるだけ早く安全な場所に逃げる。
- 車で遠出の際は、できるだけ2台以上のキャラバンを組んでいく。
- 可能な限り同じ車を使わない。

(チ) 使用人

- 使用人の目の触れる場所に貴重品を置かない。
- 信頼できるまで使用人に鍵を預けない。
- 使用人はできるだけ知人や会社の同僚の推薦する人を雇う。
- 使用人の身元は親類も含め確認する。
- 使用人の親類や恋人の動向にも日頃から注意を払う。
- 使用人は公正に取り扱い、報酬は正當に払う。
- 使用人から被害を受けたと判ったときでも、頭から罵倒せず、次からその機会を与えないよう注意する。

(リ) 来客

- 身元が判らないときは、どんな場合でも扉を開けない。
- 配達人や使い走りの者が贈物を届けても包みを外に置くようにたのむ。
- 受領書に署名しなければならぬときは、扉の下から書面を受け取り署名して返すこと。
- 本人がいないときは、ほかの家人は個人的訪問を丁重に断る。
- 住居の模様替え等、作業者を家の中に入れる場合は、同居人が複数いるようにする（成人の男を含める）。

(ヌ) 電話

- 知らない人からの電話に対しては、名前、電話番号、住所を教えない。
- 他人から電話を貸してくれと頼まれても応じない。
- 受話器を取ると直ぐ切れるような電話の場合は、留守を悟られないようにし、長時間の外出を避ける。
- 不愉快な電話は直ぐに切る。
- 緊急の際に必要な電話番号は電話の横においておく。

(ル) ホテル、レストラン、空港

- もち物は身体の一部に触れるようにしておく。
- 見知らぬ人から話しかけられたら、たとえ親切そうな人でも用心する。
- 両替、チェックイン等の際は特に注意する。
- 旅行先のホテルは信頼のおけるものにする。

(オ) 日常生活一般

- 金もちであることを誇示するような言動・生活態度を慎む。
- 目立たないよう普通に生活し、現地に溶け込む。
- 周辺のメキシコ人住民と仲良くシラブルを起こさない。
- 信頼できるメキシコ人の友人をもち、適宜助言を得る。
- アパートのポルテロ、同階の住人とのコミュニケーションを密にする。
- 適度の緊張感を持って生活する。

3 在留邦人の犯罪被害・安全対策の現状

これまで、当国の治安状況・安全対策について述べてきましたが、92年6月当国で生活している在留邦人の犯罪被害・安全対策の現状を把握するため、首都圏在住約650世帯に対し安全対策アンケート調査を実施し、336件の回答を得ました。この調査結果から当国における在留邦人の犯罪被害・安全対策の現状を概括すると次の通りです。

(1) 犯罪被害状況

調査の結果、在留邦人の7割近くが当国生活において犯罪被害に対する脅威を感じ、回答者のうち約3割の方が実際に強盗、空き巣、引ったくり等の被害にあっています。これは、かなり高い確率で犯罪被害に会うことを示しています。またこれらの犯罪被害に内、強盗の多くの場合は夜間に発生し、犯人はピストル等の凶器を所持していました。一歩間

違えば殺人事件となる可能性があったのです。

(2) 安全対策の現状

このような犯罪被害の現状にもかかわらず、33%の方が警備員、ボルテロのいない住居に住み、46%の方が来客確認用の覗き穴の設置をしておらず、40%の方がドアチェーンすら設置していません。また、90%の方が夜は人通りの途絶える住宅街に住んでいますが、56%の方が玄関以外から賊が侵入できる住居に住んでいます。さらに、49%の方が車を自宅の車庫に入れるため一旦降車しなければならず、通勤経路は変えられるにもかかわらず、79%の方がそれを実施していません。

(3) 今後の対応

以上のことから、犯罪被害に対し、かなりの人が脅威を感じ、実際に犯罪被害に会いながら、安全対策は充分でないといえます。これは逆に、もう少し安全対策を強化したら、被害は減少することを示しています。アンケートの犯罪被害のなかには、安全対策にもう少し留意していたなら防げたと思われるものもいくつかあります。

当国の住宅事情から直ちに改善できない点もあると思われませんが、覗き穴、ドアチェーンの設置、通勤経路の変更など比較的容易にできるものもありますので、至急対策を講じて下さい。また、いかなる国でも夜は犯罪の巣です。夜間どうしても行動しなければならぬ場合は、単独行動をしない、暗がりを歩かないなど十分な注意を払って下さい。犯罪被害のかなりの部分を減らすことができます。

4 犯罪発生後の連絡

(1) 主要連絡先

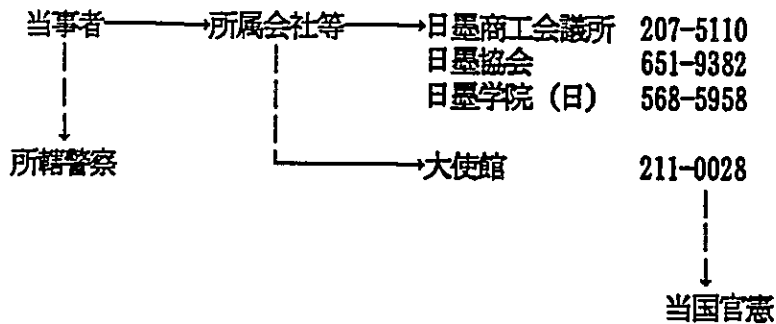
以下に主要な連絡先を掲げますが、このほかにも友人、知人など緊急の際必要な連絡先を御自身で追加して下さい。

連絡先	連絡先 (西語)	電話番号
大使館	Embajada del Japon	211-0028
日墨商工会議所	Camara Japonesa de Comercio e Industria de Mexico	207-5110
日墨協会	Asociacion Mexico Japon	651-9382
日墨学院 (墨)	Liceo Mexicano Japonés Curso Mexicano	568-7111, 568-7465
日墨学院 (日)	Liceo Mexicano Japonés Curso Japonés	568-5958
緊急110番	Radio Patrullas	06
緊急事件	Emergencia y auxilio para la demanda ciudadana	672-0606
盗難110番	Denuncia de Robos	08
火災事件	Bomberos	768-3700
連邦区警察庁	Secretaria General de Proteccion y Vialidad del Distrito Federal	
	* Informacion	211-9097
	* Secretario General	208-9635, 208-0117
ミゲル・イダルゴ警察	Jefatura de Area Miguel Hidalgo	520-1156, 540-1979
クアウテモック警察	Jefatura del Sector 3 Sur	529-7209, 529-9102
	Jefatura del Sector Centro historico	588-5100, 588-4771
	Jefatura del Sector Norte	583-3080, 583-2605
ベニト・ファレス	Jefatura de Area Benito Juarez	519-2297, 519-8798

警察

連邦区司法警察庁	Direccion General de la Policia Judicial	625-8008
国内旅行客、外国人 専用派出所	Agencia del Ministerio Publico Especializada en Atencion a Visitantes y Extranjeros	
	Centro: Argentina esq San Ildefonso	789-0833
	Zona Roza: Florencia No20	625-8761
ABC病院	Hospital ABC	272-8500
アンヘル病院	Hospital Angeles	652-0422, 652-3011

(2) 連絡要領



4 過去の事例

(1) A氏は、夜10時過ぎ勤務を終えてプラザ・ポランコの事務所から駐車場に向かう途中、ナイフを持った男に呼び止められ、近くの人気のない通りに駐車してあった車の中に連れ込まれた。車内にはもう一人の男が拳銃を持って待ち構えており、金銭はもちろん車の免許証、パスポート、航空券、背広の上着、靴、ベルトにいたるまで強盗された。

(2) B氏は、夜11時ごろ外出先よりポランコ地区の自宅に帰宅し、車を車庫に入れ正面玄関に向かう途中、二人組の男に拳銃で打たれ、手提袋（現金1100ドル、小切手帳等在中）を強奪された。
なお、弾丸は右胸付近から、右上胸にかけて貫通したが一命はとりとめた。

(3) C氏は、子息（21歳）と夕方6時過ぎチャプルテペック公園を歩いていたところ、三人組の男に取り囲まれ、ウエストバッグを切り取られるなどして、所持品一切を強奪された。この時同公園には、まだ人通りもあったが誰も助けてくれなかった。

(4) D氏は、チャプルテペック公園よりソカロ行きバスの中で、三人組の男に囲まれ、その中の一人がD氏の首を絞め他の二人がバッグを切り裂き、中の物全てを盗って次の駐車場で降りてしまった。車内に乗客はいたが無関心だった。

(5) E氏は、週末2日間家を留守にしたところ、留守中に空巣に入られた。空巣は同氏宅の塀（2.5m）を乗り越え、窓ガラスを破壊し、屋内に入ってバイオリン、テレビ等相当額の家財品をもち去った。この日は女中にも休みを与えており、家には誰もいなかった。

(6) 上記の他多くの旅行者が、地下鉄でスリにあったり、路上でひったくりにあったり、レストランや空港で置き引きにあっています。多くの場合は被害者のちょっとした隙を狙って行われていますが、最近では背中にアイスクリームを付けたり、話しかけたりして注

意をそらし、その間にほかの者が所持品を盗むといったグループによると思われる犯罪が目立っています。

5 誘拐対策

(1) 誘拐防止対策

(イ) 職場の安全対策

○誘拐犯は常に狙いやすい相手を探しています。狙われないためには、安全対策を充分立てていることを外部に印象づける。

○誘拐の対象となるおそれのある会社や個人は、ハイレベルの現地国政府、警察、軍関係者と密接な関係を持つこと。また、大使館とも密な連絡を取っておくこと。

○職員が犯人に買収されないよう（特に秘書の場合重要）、身元調査を厳重にすると共に、職場のモラルを高める。

○予測可能な規則的行動を避ける。行動スケジュールは関係者以外に知らせない。

○職員に身分証明書、またはそれに代わるもの（可能ならば磁気データ付カード）を携帯させる。

○特に重要な人物を中心に同心円状に多重の警戒網を設置する。

○要人の部屋は外から覗かれないようにすると共に来訪者を確認できるようにし、ドアはリモコン開閉にする。個人用警報装置をいれる。定期的に盗聴装置の有無を検査する。

(ロ) 通勤途上の安全対策

○通勤途上で、最も誘拐されやすい場所は、ルート変更の難しい家庭及び職場の近くです。

○車は、特別の装置の付いたものか、反対に目立たないものを選ぶ（装備が不十分で目立つ車は最悪）。また、ボディガードも、中途半端な者を雇った場合、いざという時役に立たないだけでなく、目立つ分だけ危険が増す。

○通勤の時間とルートは頻繁に変える。到着予定時刻は到着地点にいる者以外に教えない。できるだけ広くて交通量の多い道路を選ぶ。追跡されたら交番や軍駐屯地につける。

○運転手に逃走のテクニックを会得させる。ドアはロックし、偽警官に対し、うっかり窓やドアを開けないこと。

(ハ) 家庭の安全対策

○戸締まりに常に注意する。ドアを開ける瞬間が一番危険です。

○家族の友人を名乗る場合も本人の確認を取らない限りいれない。

○警官、電気屋を名乗る場合、電話で確認を取る。

○使用人、子供にも上記の点を厳重に指導する。

○子供を迎えに来たと称しても、決められた人以外に子供を渡さないよう、学校当局に厳しく申し入れる。

○10代後半、ないしは大学生の子供については、政治的扇動に子供が利用されたり、友人を装って犯人が家庭に出入りしないよう気をつける。

○使用人が、買収、脅迫されていないか注意する。

(ニ) 警備会社

○一般に確立した名声のあるところ以外は、警察に確認せずに雇うべきではない。

(2) 人質となった際の心得

(イ) 心の準備

なにが起るかかわからないことが最大の恐怖。誘拐についてのある程度の知識（誘拐されて殺された者は3%にすぎないこと、大多数の誘拐は5日以内に終了していること等）は大きな心の支えとなる。

(ロ) 拉致

○誘拐の瞬間が最大かつ唯一の逃げるチャンス。誘拐される危険のある人またはその運転手は、日頃から幾つかの筋書き（例えば犯人たちのなかに車で突っ込む等）を考えておく。

○一旦車が止められ、犯人に取り囲まれたときは逃げるチャンスはない。降伏して犯人の言うとおりにすること。

(ハ) 最初の数日

○捕まった最初の2～3日が最悪のとき。犯人を挑発することなく、自分の士気を回復するように努める。

○犯人の特徴、道筋、監禁場所等を知る上で手掛りとなる事項を詳細に記憶するよう努める。これは、誘拐のショックから立ちなおるためにも必要。

○予想される味方の反応、身代金の額を決める上で参考となるようなことは、うかつに話さないこと。

(ニ) その後の適応努力

○(狂言的なテロリストを除き) 時と共に犯人と被害者との間に人間的な関係が生じてくる。このような関係が発展すれば、犯人が人質を殺す可能性は低くなるので、このような関係を育むように努力する。

○士気を保つよう、体操、頭の訓練を心がける(脱出計画を練るのも精神衛生上有益)。但し、犯人を挑発しないこと。

○犯人から手紙やテープでメッセージを伝えるよう要求された場合、気軽に引き受けること(抵抗して犯人との人間関係を悪くする必要はない。むしろ専門家が人質の現状を知る手掛りとなる)。

(ホ) 救出作戦

○この段階では、犯人が自暴自棄にならないよう極力なだめながら、交渉が長引くのを助け、犯人の抵抗意欲を喪失させることが重要。

○犯人に代わって警察と交渉することに同意してはならない(警察が犯人の精神状況を知る手掛りが無くなる)。

○警察が有能であれば、包囲した段階で盗聴マイクを取付けるので、自分の服装等救出の手助けとなることを会話のなかにそれとなく盛り込むようにする。

(3) 緊急時の行動計画と危機管理

(イ) 警察との協力

腐敗の有無に注意。警察全体が腐敗しているときは、脅威と成る組織に金を払って安全を確保するほかない(但し、いつまでも続けることは困難)。

○テロ組織に関する情報交換

警察から得た情報を許可なく第三者に教えない。特に情報源については、聞くべきですらない。さもないと、情報を得ることができなくなる。

○事件発生後の連絡、通信体制の打合せ。

(ロ) 役員の個人データ(家族情報を含む)の秘密ファイルの整備

住所、電話番号、家族情報、旅券番号、クレジットカード、身分証明書番号、車、医者、弁護士、隣人、友人名、血液型、持病、必要薬品名、写真、筆跡、声の録音等 (ハ) 危険管理チームの設置

○最高責任者はチームの委員長になるべきでない(本人が誘拐される恐れ有)。但し、いつでも参加できることは必要。

○チームのメンバーには、保安、リスク管理、財務及び広報担当役員、法律顧問並びに交渉担当者となるべき者を含める。

○職員が誘拐の通報を受けた場合、直ちに警察に通報することなく(不用意に通報すると人質の生命が危険に晒される恐れがある)、予め指定された役員に報告するようしておく、特定の役員が警察内の特定の人物に連絡する体制を用意しておく。

(ニ) 犯人との交渉

○交渉担当者は、意思決定者とは別人で、かつ人質と個人的に近い関係にない者であること。

○交渉者は予め譲歩の限度を知っておく必要がある。

○電話での交渉では、相手が本当に誘拐犯人か(身代金の横取りを狙うものではないか)

、人質がまだ生存しているかを確認することが基本。

○誘拐発生後、家族を直ちにその地から離れさせる。交渉が長引くと関係者の誘拐が起こる恐れがある（その場合、2人の人質のうち1人が殺される可能性が著しく増大する）。

○日がたつにつれ、犯人が発見される可能性が高まることから、犯人の緊張と疲労は高まり、身代金が手に届く範囲にあると考えられる時にさらに激しくなり、次第に決着を切望するようになる。

(ホ) 包囲

最も危険なのは包囲の初期の段階。犯人が自暴自棄にならないよう、注意を要する。犯人が生きたまま逃亡することを最大の目標とする段階になれば危険な段階は去ったと言える。

(ヘ) 解放後の人質

○解放後の人質は、見かけより相当大きな精神的傷を負っており、報道陣との会見は仮りに行うとしても、時間を厳しく制限する。

○数週間から数カ月間の回復期間中、被害者には完全なプライバシーを与える。○所詮ストックホルム症候群のため被害者が警察に敵がい心を抱いている可能性もあるので、事情聴取のタイミング、時間に注意が必要。

